

一般助成 子どもの健やかな成長を願う事業(やすらぎ・いたわり)

## 「生活拠点を失った元非行少年の社会的居場所創出・維持」事業

### 誰もが生まれ育った環境に左右されない社会づくりを目指して活動を継続

親の蒸発や虐待などで頼れる大人や生活拠点を喪失し、児童養護施設などに入所している子どもの中には、施設不応や非行などによって施設退所を余儀なくされる子どもがいる。そうした子どもたちに自立に向けた居場所と支援を提供することで、親身になって立ち直りをサポートする活動を続けている団体が東大阪市にある。



シンポジウムを告知するチラシ



シンポジウムには児童福祉専門職や少年司法関係者など約150名が集まった

### 居場所を失った子どもたちに伴走し立ち直りと自立を息長く支援する

未成年でありながら生活拠点を失い、経済的、精神的、社会的に困窮しているいわゆる非行少年に対し、非行からの離脱、再非行につながるような脅威の阻止、自立拠点の確保など、自立しやすい環境づくりに向けた支援を目的に、居場所の提供・相談、自立支援シェルター、児童養護施設退所者等のアフターケア、矯正施設から社会復帰した少年少女の居場所の確保などの事業を行っているのが、東大阪市のNPO法人「チェンジングライフ」である。

虐待、ネグレクト、一家離散など、保護者の養育態度や生まれ育った環境によって家庭で養育されず、児童養護施設などで育った子どもたちの中には、施設への不適応

や非行などの問題行動によって逮捕され、施設退所を余儀なくされる子どもがおり、結局、帰住先がないまま社会に投げ出され、男子は反社会的集団に、女子は性産業などに流入する実態がある。そうした子どもたちが立ち直ろうとしても、頼れる大人や生活拠がないため、現実的にはうまくいかないという問題がある。

2017年度にAJOSCの助成を受けたチェンジングライフでは、民間アパート4室を立ち直りの拠点として借り上げ、児童相談所や保護観察所などの関係機関と連携しながら子どもたちを受け入れ、生活や自炊指導等を含め、就労や就学に向けて辛抱強く伴走することで、再非行の防止、生きる意欲の獲得を目指す活動を開始した。そこで生活しつつ、就労や就学が定着して自立する条件や環境が整っ

た子どもは、自らアパートを借りるなどして自立していくが、その際にも賃貸契約時のサポート、訪問・相談などのアフターケアを実施し、息の長い自立支援を展開している。同法人では2018年度も助成を受け、活動を継続している。

### 多数の少年少女をアパートに受け入れ、支援について考えるシンポジウムを開催

2018年度は4室を自立拠点として維持しつつ、さらに、順次3室を確保し(年度末にもう1室確保)、計12名の青少年を保護観察所、家裁、私的契約等で受け入れた。子どもたちは介護業で複数の資格を取得し正職員になったり、清掃業や建築業等で就労継続しているが、中には18歳に満たない、親権同意書を得られない等の理由で本人名義のアパートを借りられなかったり、発達障害等を抱え、一般就労に課題を持つなどの理由で、現在も複数名の青少年を支援継続している。自立を果たした子どもの中には、今度は同じ境遇にいる後輩たちを応援したいと希望する人も出てきており、当事者支援のサイクルが生み出されつつあるという。



シンポジウムは新聞やニュースサイトで報道されるなど反響を呼んだ

また、同法人では2017年度と同様、AJOSCの助成を活用し、2019年2月11日に大阪市中央区の府立労働センター(エル・おおさか)で、「児童福祉法と少年法の隙間に落ち込んだ子どもたちの支援を考える」と題したシンポジウムを開催した。児童相談所、法務省矯正局、保護局、教育関係者、弁護士など、児童福祉専門職や少年司法関係者が全国から150名以上集まり、帰る家を失った子どもたちの支援について、専門家の意見をまじえ、考え、社会に発信する機会を持つことができたという。当日の様子は、「帰る家のない少年たち サポートの在り方探る」という見出しで大阪日日新聞で報道され、サイト内のニュースランキングで1位を獲得するなど反響を呼んだ。

「生活拠点を失った子どもの居場所の確保は、我が国ではまだまだ未整備です。世の中の人々の多くは、親から養育を受けられない子どもは18歳までは施設に置いてもらえると考えていますが、実態は異なることをシンポジウムなどを通じて訴えているところです」と、同法人理事長の野田詠氏さんは話す。



更生を目指す少年少女が入居する自立支援シェルターの一例

助成団体:特定非営利活動法人 チェンジングライフ

<http://changing-life.net/>



### 子どもの再非行防止と心身の貧困対策で貢献できたと思います

2017年度にホームに受け入れた子どもの中から、高校・大学進学者、就労定着者があり、2018年度も資格等を取得して介護業に従事している少年3名を含む、7名の少年たちが発達特性の課題を抱えながらも着実に地域に定着し、自立に向けて覚えない足取りながら歩み始めています。AJOSCの支援は、たくさんの障害を乗り越える力を私たちに与えてくださいました。

特定非営利活動法人 チェンジングライフ  
理事長 野田詠氏さん